



Release

フランクフルト・アム・マイン

2022年3月9日

ドイツ銀行、ロシアに対するエクスポージャーは非常に限定的であることを報告

ドイツ銀行（銘柄コードXETRA:DBKGn.DB/NYSE:DB）は、本日、ロシアおよびウクライナに関し、当行の現地業務から生じるリスクを含む両国に対するリスク・エクスポージャーは、限定的かつ大幅に軽減されているとして、その詳細を公表しました。

当行は、2014年以降、ロシアに対するエクスポージャーおよび現地の拠点を大幅に縮小しており、過去2週間においてもさらに縮小しました。チーフ・リスク・オフィサーであり、取締役会のメンバーであるスチュアート・ルイスは、次のように述べています。「当行の直接的なエクスポージャーは現時点で非常に限定的であり、厳格に管理されています。制裁やサイバーセキュリティのリスクを含む、現在の状況の二次的および三次的影響については、慎重に評価および監視をしています。」

当行全体の貸出ポートフォリオに占める、ロシアおよびウクライナに対するクレジット・エクスポージャーの割合はわずかであり、多くのリスク軽減策により保護されています。これらの軽減策には、オフショアの担保や金融保証契約などが含まれ、また市場リスクへのエクスポージャーは、ロシアのウクライナ侵攻の前後において大幅に縮小されました。

2021年12月31日現在のロシアおよびウクライナに対する当行のクレジット・エクスポージャーは、以下のとおりです。

- 保証および担保資産を考慮した**ロシアに対する貸出金の純エクスポージャー**は6億ユーロ。貸出金の総エクスポージャーは14億ユーロで、貸出金全体の約0.3%。純エクスポージャーの内訳は以下のとおりです。
 - ロシア国外で実質的事業が行われキャッシュフローが生じる大規模ロシア企業に対する5億ユーロ（総額は11億ユーロ）、オフショアで計上されており、ロシア国内でのエクスポージャーはごくわずか
 - 大規模多国籍企業の子会社に対する貸出金による1億ユーロ（総額は3億ユーロ）、大半は親会社により保証されており、そのうち約50%はオフショアで計上
- **ウクライナに対する貸出金の純エクスポージャー**は4,200万ユーロ（総額は6億ユーロ）。
- 当行のロシアに対する**デリバティブ・エクスポージャー**の大部分は解消されています。残るエクスポージャーについても、当行が純負債ポジションを有しているため、重大な信用リスクはありません。
- ウェルス・マネジメント事業による**ロシアと取引関係のある相手方へのオフショア・ローン**は、適切に担保されており、当該担保は、ロシアとは無関係のものです。

市場リスクへのエクスポージャーについては、ロシアのウクライナ侵攻の時点における当行のロシア／ウクライナの市場リスクへのエクスポージャーは十分に抑制されており、控えめで防御的なポジションを取っていました。

オペレーショナル・リスクは注意深く監視

当行のロシア・テクノロジー・センターの閉鎖の可能性により生じるオペレーショナル・リスクもまた、十分に抑制されています。

ロシアにおける当行のテクノロジー・サービス・センターは、世界各地にある複数のテクノロジー・センターの一つであり、当行のグローバル業務の機能に対する重大な事業継続リスクはありません。同センターには、グループの内部および外部テクノロジー人員の約 5%にあたる約 1,500 人の従業員¹が在籍しています。

当行は、ロシアのサービス・センターの開発能力に係る生産リスクは管理可能であると見込んでおり、これを補うため、アジアを含む世界各地にある他のテクノロジー・センターの能力についてストレス・テストを行っています。

当行のロシアおよびウクライナに対するエクスポージャーに関する詳細は、当行のウェブサイト (<https://investor-relations.db.com/RussiaExposure>) から入手可能です。

¹2022年1月31日現在

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資および資産運用の商品およびサービス、ならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根差しつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2021年3月12日付年次報告書（Form 20-F）の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該報告書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。